

ちかひ



浄土宗西山深草派宗務所
総本山 誓願寺

◆ 目次 ◆

- 開宗八百五十年に向けて ⑩
 - 賢問子行状記 ③①
 - インド **ド** **タ** **バ** **タ** 夫婦道中記 ⑤⑥
 - お釈迦さまの十大弟子 ②②
 - 洛陽三十三所観音霊場巡礼のご案内
 - 総本山誓願寺だより
 - 何でも お寺探偵団 Vol. 60
- 水晶山 宝樹院 極楽寺

法然上人より伝来の水瓶
岡崎市 崇福寺 所蔵

法然上人、出家・剃髪場面
法然上人伝絵10幅の内 第1幅
西尾市 養壽寺 所蔵

元祖法然上人開宗850年 慶讃大法要

令和6年4月21日～25日 厳修
浄土宗西山深草派
総本山 誓願寺

その時は
開かれた

開宗八百五十年に向けて 10

布教師会 酒井安仁

指針となるもの

人生はよく織物に例えられることがあります。

織物を織る時、横糸が少しぐらい傷んでいても、縦糸がしっかりしていれば立派な織物が出来上がります。私たちの人生も同じように、**仏さまの教え**という縦糸を軸に、日常という横糸を織り込んでいくことで、苦しみや悲しみ、悩みと言ったもの乗り越えた人生を歩むことができます。

毎月お参りにお伺いしている檀家のKさんのお話です。今までお参りを欠かしたことがないKさんが、ある時から月参りを四ヶ月もお休みすることがありました。

久しぶりに再開されたお参りの折、少しお瘦せになったその様子から心配になってお話を聞いてみると、体調が優れなかったが病院には行かなかつたと言います。元々病院嫌いのKさんは、

「それがどんな病気であったとしても、病院へ行く気はない。行つて病名を知らされ思い悩むより、それを仏さまからの授かりも

のとして受け入れ、共に生きていく覚悟です」

と言つて手を合わせたその姿は、仏さまを心に頂いた姿そのものでした。

建永二年（二二〇七）、法然上人七十五歳のときのことです。急速に広まる法然上人のお念仏の教えに対して、不満を募らせていた他宗が圧力を強めていました。

そんな中、弟子である住蓮と安樂が、後鳥羽上皇の寵愛を受けていた女官一人を、上皇の留守中に出家させてしまったことで逆鱗に触れ、処刑されるといふ事件が起きました。これを契機に念仏は停止となり、法然上人に四国へ流罪となる宣旨が下されました。

ご高齢の法然上人にとつて四国への流罪は死出の旅路。多くの弟子たちが法然上人の元を集まり、最期となるかもしれない別れを惜しみました。

悲しみ涙する弟子たちを余所に法然上人は、これまで訪れることのできなかつた地方の人々にもお念仏の教えを説くことが出来る喜び、朝廷の監視が厳しい中、それまでと変わらず弟子たちにお念仏をお説きになるのです。

そんな法然上人の身を案じた弟子の西阿が、
「こんな時でございませす。しばらくお念仏をお控えください」

と申し出ました。すると法然上人は、

「西阿よ、教釈文には何と説かれてある。
『無上甚深微妙の法は百千万劫にも遇い難し』とあるであろう」

「しかし、これ以上お師匠さまの身に何かあつては」

となんとか念仏を控えて頂こうとする西阿に、

「たとえ死刑にされたとしても、念仏の教えを広めることを止めはしない」

とその進言を退け、自らの命など惜しまずに念仏と共に生きる覚悟を示されたのでした。

八万四千ある仏さまの教えの中からお念仏を見いだされ、それを指針として求道の生涯を送られた法然上人。そのお言葉に、**念仏に勇みある人は、無辺の悟りにあらずか人なり**

とあります。「念仏に勇みある人」とは、心に仏さまを頂いている人。「無辺の悟り」とは生活の中より脱皮すること。つまりお念仏を頂くことで、私たちの心の働きを正しい方へ、美しい方へ、和やかな方へと導いて頂くのです。

法然上人が浄土宗を開かれて八五〇年、脈々と受け継がれてきたお念仏を指針として、仏さまの御心に叶う、よりよい人生を歩んで参りましょう。

賢問子行状記

宝蔵寺住職 小島英裕

31

第十九話

「恵心僧都の信仰」

比叡山横川、首楞嚴院の源信僧都は、恵心院の僧都（恵心僧都）とも呼ばれました。奈良県葛城市當麻の出身で、幼少の頃、延暦寺に登り慈恵大僧正を師として仕えました。聡明で学問を怠らないので、大藏經の奥義を悟り、他宗の根源を究め、当時、三千人いた比叡山の修行僧の中でも秀でていました。

この頃、天台の教えは全盛期で、全国各地に広まっていました。そもそも顕教・密教の修行は、理性と智慧を兼ね備え、精進する高僧のみが成し遂げられるものでした。頑なで愚かな者にはとても耐えられない修行です。しかし念仏の一行は、愚かな者を救うだけでなく、聖で

あつてもさらに喜び求める教えです。普賢菩薩、文殊菩薩もこの世で願いを起し西方極樂浄土に生まれ、龍樹菩薩、天親菩薩も入滅の後、偈を説いて西方極樂浄土に帰りました。中国では恵遠法師が廬山で念仏の行を修め、日本では聖徳太子が四天王寺の極樂門を極樂の東門になぞらえ、極樂往生の道を示しました。全ての人は分け隔てなく阿弥陀さまを信仰して、極樂往生を願わずにはいられなかつたのです。

そこで恵心僧都は、常に誓願寺の阿弥陀さまを仰ぎ慕い、下山の度に参詣しました。ある人が恵心僧都に、「あなたが長い間信仰されているご本尊を拝みたいのですが」と尋ねました。恵心僧都は、「二年中、一心に頼りにしているご本尊は、

洛陽誓願寺の阿弥陀さまです」と答えました。

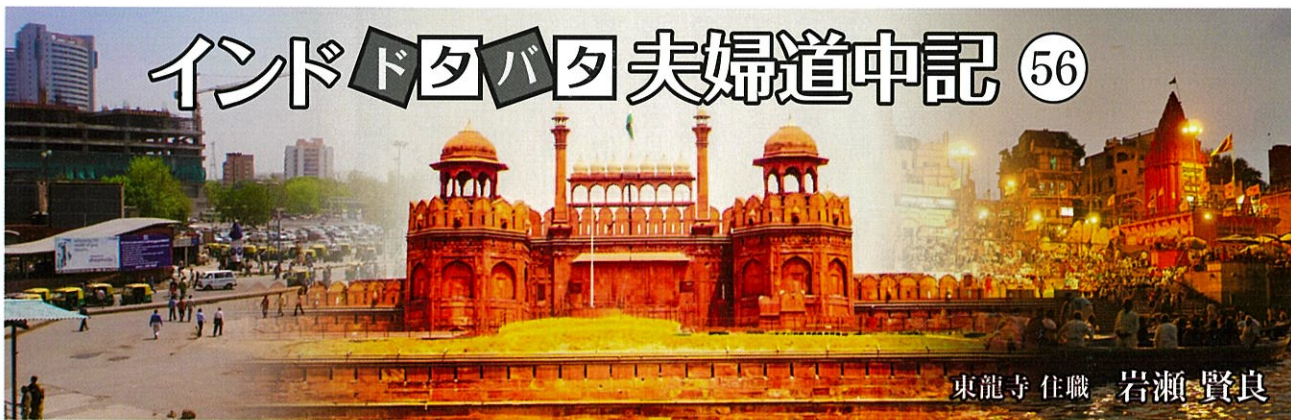
恵心僧都は五十歳の時、誓願寺に参籠して不断念仏を始め、五十日余りが経ちました。その間、善財童子（求道の菩薩）が五十余りの良き人々に会い仏道を求める姿を、自ら五十余りの掛け軸に描き、これを内陣に掛け、毎日供養しました。恵心僧都が、

「善財童子は功德雲比丘から念仏三昧を伝えられました。私は誓願寺の阿弥陀さまを慕い、最も優れた功德である弥陀三昧を修行します。どうして往生が出来ないということがありましようか」と語ると、誓願寺の参拝者は喜びの涙を流しました。これを「善財講」と言い、

一卷の式にまとめ誓願寺のお手本になりました。これを「誓願講式」と言い、また「六道講式」・「二十五三昧の式」とも名付けられました。

その後、毎月十五日、阿弥陀さまの前でこの式を執り行い、念仏を称え、六道でさまよい苦しむ人々に回向しました。恵心僧都の慈悲深い教化に人々は心より手を合わせました。（つづく）

インドタバタ夫婦道中記 56



東龍寺住職 岩瀬 賢良

ほっとする賑やかさ

オールド・デリー駅にある南側の駅舎の二階のレストルームに僕たちは入り、壁際にある荷物を載せる机の上に二人のバッグを載せチェインロックで繋ぎ、目の届くベンチに腰掛け、夜が明けるまで休憩をした。

外が明るくなつてから、一階のクロークにバッグを預け、身軽になつて表通りに出た。駅前に並ぶ露店でまずはバタートーストとチャイを頼んで腹ごしらえをし、サイクル・リクシャーを拾つて一番近い名所、デリー城（ラール・キラー、英語名でレッド・フォート）赤い城）に向かった。ここは八九年に訪れた場所で、公の場所である城の奥の広大な庭の地面に、洗濯物がスラーツと広げて干してあり、そして猿回しや蛇使いの大道芸人が、渡り廊下に沿つたすぐ下で芸を見せ、二階の渡

り廊下の窓からそれを見物する観光客が小銭を投げていたのを鮮明に記憶している。この城はアグラのタージ・マハルを建てた、ムガル王朝第五代皇帝の城として有名である。しかし、朝早かつたからなのか、入場禁止にしたのかは分からないが、洗濯物や大道芸人たちの面影はなかった。

デリー城の門の外に出ると、前の広場にはお揃いの制服を着たブラスバンドのおじさんたちが十数人集まっていた、面白そうだったので近付いていくと、人なつっこい数人が写真を撮れと招くのだった。ちよつとしたパレードに雇われて三々五々集合していたのだろう。僕は利子に彼らの中に入るよう促すと、その顔は「一緒に写さなくても・・・」という表情だった。それはこの後の成り行きを彼女は察していたからだ。僕も、多分そうなるかも・・・、とは予測しながら、数回シャッターを押ししてお礼を言うと、案

の定、調子のいいおじさんたちは「バクシーシ（お恵みを）！」と手を差し伸べるのだ。だが彼らは乞食が本業ではないので、この「バクシーシ」は言うてみれば観光客との挨拶というか、おねだりのようなもので、金額が少ないからと文句を言われることはないだろうと、僕は五ルピー札を一枚ずつ、その中の二人に手渡したのだ。カメラに収まった彼ら全員に一〇ルピー（約二五円）でチャイが一杯ずつ飲めるかどうかは微妙ではあったが、やはり誰も文句を言う人はいなかった。



ブラスバンドのおじさん達 デリーにて

お釈迦さまの
ご生涯
外伝

お釈迦さまの十大弟子 22

絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

多聞第一阿難陀尊者(その二)



お釈迦さまが五十五歳の時のお話です。身の回りの世話をする役を侍者と言います。その当時、侍者は那迦波羅という弟子が勤めておりました。しかし、この那迦波羅はいい加減な人だったようです。お釈迦さまが外で座禅をされておられ、座禅が終わるまで侍者は休むことはできません。夜になってもお釈迦さまは座禅をおやめになりません。那迦波羅は眠くて仕方ないので、お釈迦さまに座禅をやめさせようと、頭から衣を被りお化けの真似をして脅かそうとし、座禅をやめさせようとしました。

またある時にお釈迦さまのお供として信者の家に向きました。お釈迦さまが中で説法をしている間、那迦波羅は外で待つておりました。うっかり居眠りしてしまい、持ってきた荷物を盗まれてしまったのです。これにはお釈迦さまもあきれはて、那迦波羅を侍者から外しました。今度はちゃんとした侍者をつけようと、主だった長老の弟

子達に相談しました。数人の弟子達が手を上げました。中にはお釈迦さまよりも年上の古老の弟子もいましたが、お釈迦さまは申し出を断りました。

その様子を見ていた目連尊者は神通力でお釈迦さまの心の中を伺いました。するとお釈迦さまが阿難陀尊者を望んでおられることを知りました。そして、目連尊者は阿難陀尊者に小声で言いました。「阿難陀、お釈迦さまはお前が侍者になることを望んでおられるぞ」



宣言をする阿難陀尊者

「えっ、そんな大役をお受けすることはできません」

「いやいや、お前なら大丈夫だ」

「困ります。できません」

「いやいや、大丈夫だ。お前ならできる」

目連尊者が二度勧めた時に、阿難陀尊者は侍者になることを決意しました。目連尊者と阿難陀尊者の様子を見ていた舍利弗尊者が言いました。

「世尊よ、侍者には阿難陀が最適だと思えます」

「そうか。阿難陀が侍者をやってくれるか。私は満足であるぞ」

「さあ、阿難陀よ、世尊の前、皆の前で決意を宣言するがよい」

阿難陀は立ち上がり、

「世尊よ、長老達の勧めにより、私が侍者に推薦されました。次の三つの条件を叶えられるなら、喜んでお受けいたします」

「阿難陀よ、三つの条件とは如何なるものか」

「世尊よ、一つには世尊のお持ち物は勝手に使えません。二つには世尊が信者より食事の接待をお受けになられる時、決してお伴をしないこと。三つにはどんな時も世尊のお世話ができるように心掛けます」

「阿難陀よ、侍者としての心掛けを弁えておる。お前の望むように侍者を勤めなさい」

この宣言により阿難陀尊者はお釈迦さまの侍者となりました。

(つづく)

らくようさんじゅうさんしょかんのれいじようじゅんれい
洛陽三十三所観音霊場巡礼のご案内
 あんない

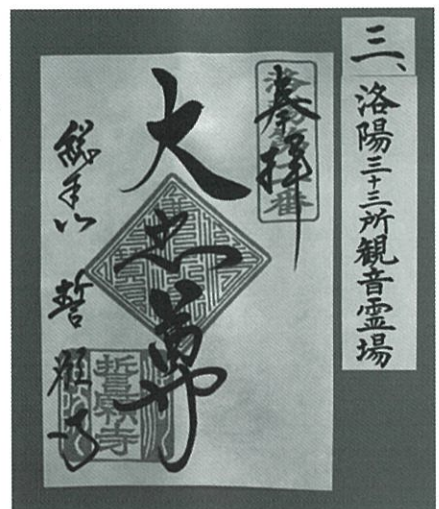
総本山誓願寺は「洛陽三十三所観音霊場」の中の第二番札所になっております。当霊場巡礼は、後白河天皇が広域で巡礼が困難な西国三十三所巡礼に代わるものとして平安時代末期に定めたのが起源だといわれています。応仁の乱などによる札所廃絶で衰退を余儀なくされましたが、江戸時代に再び巡礼が行われるようになりました。平成十七年の復興は由緒ある札所巡礼の歴史を踏まえ、その意義を再

認識し、改めて札所を定めたものです。誓願寺安置の十一面観世音菩薩像は、弘法大師の作と伝えられ、かつては新京極中筋町にある誠心院の西向かいにあった長金寺の一堂の本尊でした。古来、一言で願いを叶えてくれる「一言観音」として信仰を集めています。しかし明治初期に廃寺となったため、一言観音は誓願寺茶毘所を経て、誓願寺本堂脇壇にお祀りすることになりました。長金寺の名は、



京都 誓願寺 本山 総本山

十一面観世音菩薩像 画 中川学



誓願寺の御朱印「大悲尊」

今は御詠歌
口ずさみ その名もながき **こがねでら**
ここ安楽の 浄土なるらん
 にその名残を留めるのみです。
 三十三ヶ寺の霊場はいずれも京都市内にあり、徒歩での巡礼も可能になっております。より身近に観音さまのご利益を得られるのが、この洛陽三十三所観音霊場巡礼の魅力と言えるでしょう。専用の朱印帳と共に是非、京都の四季折々を感じながら巡礼なさって下さい。
 昨今は大変な世の中ですが、観音さまのお力を頂戴し、日々感謝し、心豊かに生きる素晴らしさに目覚めましょう。
 (洛陽三十三所観音霊場会ホームページより一部抜粋)

総本山誓願寺だより

精霊送り(盆施餓鬼)法要のご案内

毎年、八月十六日に京都では、大文字で有名な五山の送り火が行われ、総本山誓願寺におきましても、精霊送り(盆施餓鬼)法要をお勤めして、お盆の間、里帰りされていたご先祖さまをお浄土へお送り致します。



○精霊送り(盆施餓鬼)法要 一霊三千元

令和三年八月十六日(月)

法要時間 十一時・十五時・十八時

精霊送り(盆施餓鬼)法要のお申し込みは随時、承っておりますので、お気軽にお申し付けください。また、施餓鬼棚へ水塔婆をお供えする、水塔婆供養(一霊三百円)も承っております。

お盆期間中の本山納骨について

お盆の期間(八月十三日~八月十五日)、誠に申し訳ございませんが、僧侶がお盆参りに出るため、本山納骨のご予約を承ることができません。本山納骨をご希望される方におかれましては、お盆期間を外して頂きますようお願い申し上げます。

おもな行事予定

八月 十五日(日) 六阿弥陀功德日

十六日(月) 精霊送り(盆施餓鬼)

九月 十八日(土) 開山歴代忌・六阿弥陀功德日

二十日(月)~二十六日(日) 秋彼岸

十月 八日(金) 六阿弥陀功德日

九日(土) 策伝忌

十日(日) 数珠供養会

十一月 二十四日(水) 六阿弥陀功德日

二十四日(水)~二十五日(木) 元祖法然上人御忌法要

二十六日(金) 西山忌

十二月 一日(水) 仏名会

八日(水) 成道会

二十四日(金) お身拭い式・六阿弥陀功德日

三十一日(金) 除夜の鐘

○各行事を予定させて頂いておりますが、世の中の状況により変更、又は中止になる場合がございます。その際は、誓願寺ホームページにて公表させていただきます。何卒ご了承下さいますようお願い申し上げます。

クイズコーナー

【問題】

6頁「洛陽三十三所観音霊場巡礼のご案内」より、総本山誓願寺に安置されている「一言観音」はかつて、どこに安置されておりましたか？
漢字2文字でお答えください。

長金寺○○堂

ハガキに、答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想を書いてご応募ください。なお、ご提供いただいた個人情報につきましては、プレゼントの発送のみに利用いたします。今回は宝樹院さまより水晶入り御守りを10名さま、本山謹製線香を5名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒442-0105

愛知県蒲郡市西浦町北馬相十一番地

覚性院内 ちかい編集係

【締切】九月三十日

(消印有効)

答え ○○○○
郵便番号
住所
氏名
電話番号
菩提寺(だんな寺)
感想

ちかい 第162号

発行日 令和三年七月五日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

総本山誓願寺

電話 (075) 221-0958
FAX (075) 221-0919

E-mail info@fukakusa.or.jp

URL https://www.fukakusa.or.jp/

何でも

お寺探偵団

ほうじゅいん 宝樹院

Vol.60



今回は愛知県豊田市の「水晶山宝樹院極楽寺」を訪ねました。

profile

河合良延師 (宝樹院第26世) 71歳
昭和45年8月大本山圓福寺にて法脈相承。昭和49年から愛知県警察官30年、平成17年宝樹院住職拝命

近年、宗派の教区長とその会長として活躍されました。私は毎年2回開催される霊場巡拝で宝樹院ご夫妻さまにともお世話になりました。毎回、趣向を凝らしたレクリエーションをご用意され、参拝されたすべての方を楽しませていただきました。それとおなじように、宝樹院さまの参道には、ご住職が挿し木でコソコソと増やした沢山の紫陽花が、参拝者の目を楽しませてくれます。山深い集落にあつて、信仰深い村人と一緒に培ってみえた仏心だと思いました。

(探偵RH)

探偵RH

Q1 お寺の歴史を教えてください。

宝樹院は、香嵐溪の街から約7km、標高差約250mを登った先の谷間、30軒ほどの集落にあり、山号を水晶山、院号を宝樹院、寺号を極楽寺といえます。開山は大永年間(1521~1528)、春翁利洞上人です。幾度も焼失の難に遭い、宝物由緒記録等灰燼し、第4世達空上人、第11世講翁上人によって再建され、現在の本堂は約250年が経っているものと思われれます。

Q2

お寺の宝物を教えてください。

鐘楼門と水晶洞、仏足石です。鐘楼門は昭和25年、戦後間もない時代に檀家みなさまがご苦労されて、山々から樫の木を伐り総出で建造され、梵鐘も戦争で供出して無くなつておりました。が、あらためて鑄造されました。お寺の再建に尽力された檀家さまの信心の深さに感心させられます。

Q3

住職としての心掛けを教えてください。

法然上人の御歌
阿弥陀仏と 十声となえて
まどろまん ながきねぶりに
なりもこそすれ
当たり前である命の終わりがいつ来てもいいように、阿弥陀さまや沢山の菩薩さま、ご先祖さまにお迎えに来ていただけるようにお念仏を称える日暮らしをお勧めしています。

Q4

「ちわい」の読者に何か戴けませんか？

水晶山宝樹院の「水晶入り御守り」を10名さまに差し上げます。

【交通】

名鉄バス足助下車タクシー10分
香嵐溪足助の街より約7km

【主な行事】

春彼岸会 3月彼岸中日前後
花まつり 4月8日
大般若祈禱会 6月第一週土日
盆施餓鬼会 8月6日
秋彼岸会 9月彼岸中日前後

【お問い合わせ】

宝樹院
〒444-2414
豊田市葛沢町中本郷56・57合併
0565-62-2418



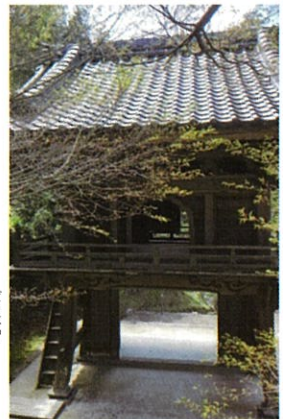
水晶洞



仏足石



堂庭の千年杉



鐘楼門